

2023 年度 応用地形判読士資格検定試験（通算第 11 回）

《学科試験-3 の解答と補足説明》

問 26. 断層面および断層破碎帯に沿って、差別侵食のみで生じた直線的な侵食谷の名称。
断層線谷（だんそうせんこく）：正解は若干名。数名が解答した「断層谷」は、断層変位の直接的な結果で生じた谷地形なので、注意が必要である。この他、リニアメントなどの誤解答が多数あった。
問 27. 堤防に挟まれた河道に砂礫が堆積し、河床面が周辺地盤より高くなった河川の名称。多くは、人為的に堤防の高さをあげることが関係している。
天井川（てんじょうがわ）：ほぼ全員が正答。一部の解答に「天上川」などの誤字があった。
問 28. 寒冷地にみられる、土中水分の凍結・融解作用により生じる地形の総称。一般には、緩やかな起伏の地形を形成し、わが国では北海道や高山地帯でみられる。
周氷河地形（しゅうひょうがちけい）：フィヨルド、カール、モレーンなどの「氷河地形」に関する解答が、正解者を上回った。氷河地形は氷河によって直接作られた地形であり、周氷河地形とは異なる。
問 29. 谷地形の出口が本流の堆積作用により閉塞され、閉塞箇所の上流に形成される低地の名称。内水氾濫が発生しやすく、災害の視点からは要注意の地形である。
支谷閉塞低地（しこくへいそくていち）：正解は数名。多くの解答があった「後背湿地」は、自然堤防の背後に発達する低湿地を指し、また砂丘や浜堤などの背後の低湿地にも使われる。
問 30. 山地内を蛇行する河川のショートカットにより、蛇行部の流路跡とショートカット部の新流路の間で孤立丘陵になった部分の名称。
環流丘陵（かんりゅうきゅうりょう）：正解は若干名。数名の解答があった「貫通丘陵」は、本流と支流の合流点の上流側で一方または双方の蛇行振幅が増大して合流点に移った結果、放棄された支流跡と本流に挟まれた丘陵を指す。紛らわしい地形用語なので、区別して使用する必要がある。

上段：設問 / 下段：解答と補足説明